

特集 オンライン座談会

コロナの時代の キャンパス ライフ

新型コロナの影響で大きく変わったキャンパスライフ。学生たちはその変化に何を感じたのでしょうか。学生にオンラインで集まっていただき、率直な声を聞かせてもらいました。司会は学生生活全般を支援する学生部長の阿藤正道先生です。ほとんどの授業がオンラインで行われ、大学への入講が禁止のまま前期を終えた学生たちの声に耳を傾けたいと思います。

司会：学生部長
阿藤正道 商学部教授

昭和62年より専修大学に在職。教養科目の化学を担当。学生の支援を担当する学生部長を10年務める。

商学部マーケティング学科2年
堀井洸希さん

一人暮らし。2年後期からは石川和男ゼミでマーケティングの戦略とマネジメントを学ぶ。専修リーダーシップ開発プログラムを受講中。入学センター学生スタッフも務める。

商学部マーケティング学科3年
林 正揮さん

親元で生活。飯田日貴ゼミで中世商業史を学ぶ。教員採用試験講座受講。アルバイトとして神奈川県の中高一貫校で卓球のコーチをしている。



CM19-0290H 室 和樹さん
体育会柔道部副キャプテン。生田第1体育寮で生活していたが、今年4月から埼玉県で親元で生活。活動自粛中も自主的に体力の維持を図る。

国際コミュニケーション学部
異文化コミュニケーション学科1年
吉武千佳さん
親元で生活。サークルには入っていないが、アルバイト先の専大生の先輩の誘いで、入学センター学生スタッフに所属。

生活の変化

阿藤：今日は4人の学生さんにこのコロナ禍において、どのような生活を送ってきたのか、率直な意見、感想、その他何でも話していただければと思います。まず、コロナ禍で生活にどのような変化がありましたか。

室：私は体育会柔道部に所属していますが、4

月にコロナの影響で部活動ができなくなりました。生田第1体育寮で集団生活をしていましたが、部活動の再開の見込みが立たないため実家の埼玉に戻り、自宅で自粛生活をしながら、いつ部活動が再開してもいいように個人トレーニングしていました。ところが8月下旬に、全日本学生柔道連盟からすべての大会が中止になったとの発表があり、大変ショックを受けてい

ます。残された大学生活でできるのは、後輩たちに自分が学んだことを教えるということです。練習を再開した時には全身全霊で後輩の指導に力を注ぎたいと思っています。

林：僕はコロナにより家にいる時間がすごく増えました。夏休み中に行こうと思っていたインターンシップは倍率が高くて参加できませんでした。アルバイトは神奈川県の中高一貫校で卓球のコーチをしています。これもコロナで部活がなくなった期間がありました。前期はオンライン授業のため毎日、PCと向き合って過ごしていました。

阿藤：では次に、堀井さん。堀井さんはこの中で唯一、一人暮らしをしていますね。

堀井：はい。今も一人暮らしをしています。静岡の実家には戻らず、オンライン授業も一人暮らしの部屋で受けていました。こういう事態になって、実家に戻ろうかと迷いもしましたが、大学の授業もどうなるかわからなかったですし、オンライン授業を受けるにしても、実家だと家族とWi-Fiのデータ量を分け合わなければならなかったの、通信環境の面も考えて一人暮らしのままオンライン授業を受ける決断をしました。林さんと同じで、家にいる時間が増え、パソコンを覗いてる時間も長くて目が疲れます。キャンパスに通えないと、こうも生活が違うのかと痛感しました。

阿藤：商学部は今年度から生田キャンパスから神田キャンパスに移転しましたが、まだ神田キャンパスには行っていないですか？

堀井：8月の下旬に、健康診断があったので新校舎に入りましたし、入学センター学生スタッフとしてミニ・オープンキャンパスの案内役も務めているので、それで神田キャンパスには何度か行ってます。

阿藤：1年生の吉武さんはどうですか。

吉武：私はキャンパスにまだ一度も行けてないので、友達も作れていなくて、一人でパソコンに向かったの授業は寂しいなって思っています。想像とはだいぶ違うキャンパスライフがスタートしてしまったので、悲しいとは思っています。

阿藤：新入生には残念なことですが、春先のガイダンスも中止になり、サークルの勧誘活動も行われませんでした。そのような中、吉武さんは入学センター学生スタッフに所属していますが、どのようにして入ったのですか。

吉武：アルバイト先に専大の先輩がいらっやって、誘ってもらいました。こういうときなので、大学の人とかかわれる機会は貴重だと思って入りました。

オンライン授業の感想

阿藤：前期の授業は遅れて5月11日から始まりました。授業開始を目前にオンラインで授業をすることが決まり、私たち教員にしても大変な面がありました。短い時間でオンラインの準備をしたため、そういう点では必ずしも十分な準備ができていなかったかもしれず申し訳なく思っています。オンラインで授業を受けての感想、メリットとデメリットなどをお聞かせください。

室：大学に行くための身支度や移動の時間がない分、時間を有意義に使うことができたのはメリットだと思います。ただ、一人で授業を受けなければいけないので、わからないところをすぐに先生に聞けなかったり、友達に教えてもらったりできないところはデメリットです。私は大学がとにかく好きで、毎日楽しみに授業を受けていたので、友達や教授に会えない、会話ができないオンライン授業は寂しいと思いました。

阿藤：室さんが受けた授業は、先生がリアルタイムで行っているタイプの授業ですか、それとも録画した動画を見るタイプのものでしたか。

室：ほぼ録画を見る形での授業でした。動画を見た後、メールで質問することもありましたが、直接その場で質問できるのとは違いますね。

阿藤：授業中にオンライン会議システムで質疑応答できるといいですね。後期の授業ではそういうものを取り入れていけるといいと思っています。林さんはどうですか。

林：オンライン授業への移行に関しては、専修大学はすごいなって思いました。他大に通う友達からは、オンライン授業でデータ通信がキャパオーバーになったという話も聞きました。専大生は皆、Googleアカウントをもっているの、Googleクラスルームを使って授業は円滑に進んだと思います。資料はPDFで配布され、素早く電子化に対応できたのは、さすが専大と思いました。

オンライン授業だと通学時間がない分、授業もたくさん取れます。私は教職課程も取っていて、前後期の授業を合わせると74単位にもなり

ます。そのほか TAC 教員採用試験講座もオンラインで受講しているのですが、平日は外に出ることもなく、ずっと机にへばりついて勉強しています。ただそんな生活だと、人と話す機会も減ってしまうので、友人と電話したり、オンライン飲み会をしたりしていました。

阿藤：若いからこの環境にもすぐに順応していますね。林さんの感想では、専修大学は比較的うまくオンラインに対応できたということですね。

林：はい。すごくうまくいっていると思います。

阿藤：堀井さんはどうでしょう。

堀井：オンライン授業については、僕も同様に時間と通学費が節約できるというメリットを感じます。先生たちの工夫が伝わってくる授業もあり、僕らのやる気を引き出してくれました。先生たちが工夫しているからこそ、僕たちもついていきたいなと思えました。一方で、スライド資料だけ共有して、ただ文字を読む授業もあって、リアルタイムで先生の表情が伝わる授業と比べて、投げ出された感があったものもあります。

専修リーダーシップ開発プログラム^{※1}も受講していて、そこではチームで課題に取り組み、プレゼンテーションを行ったりもしていますが、チームでのプレゼンはオンラインだとやりづらいです。本来なら発表中もチーム内で意思疎通を図りながら進められるのですが、それができません。

阿藤：私は1年生の入門ゼミナールで担任を持

っていて、図書館の案内、レポートの書き方などの説明をオンラインでしました。ただ、学生に質問してくれと言っても、全然出てこなかったの、オンラインだと質問しづらいのかなとも思いました。

林：僕はオンラインのほうが質問しやすいと思っています。授業を見ながら、チャットでの質問もできます。

阿藤：吉武さんはいかがですか。

吉武：初めての大学の授業で予習復習にも時間がかかるので、通学時間がない分、そこにかかる時間が増えたのはよかったかなと思います。メールで質問すると先生方も丁寧に説明してくれました。でも、パソコンを使い慣れてなかったの、最初のセットアップにもたついたり、一日中パソコンに向かってるので目がすごく疲れたりしました。

阿藤：オンライン授業は、最低でもスマホがあれば受けられるものにしようとして大学でルールを定めました。でもスマホの画面でずっと授業を受けるのも実際は大変ですよ。スマホしかない学生さんはかなり苦労したと思います。

人間関係どう築く

阿藤：友人や教員との出会いや交流も大学生活では大事なことと思いますが、こういう状況下ではオンラインでしか交流できません。大学で過

※1 専修リーダーシップ開発プログラム—蒼翼の学舎— 専修リーダーシップ開発プログラムは毎週の講義と4、5人のチームで企業や自治体への事業提案等に取り組みながら、リーダーシップについて実践的に学ぶ講座。



商学部4年
室 和樹さんの一日(休日)

体力向上のために毎日、体の部位をローテーションで鍛えています。



0時	6	7 00	9 00	10 00	12	13 00	16 00	17 00	18	21 00	22 00	23 00	24
自由	睡眠	ランニング	シャワー	朝食	自由	昼食	自由	間食	自由	ウェイトトレーニング	夕食	入浴	自由

朝一番のランニングで日差しに当たり、汗を流すことで頭がすっきりして、よい一日のスタートを切ることができます。

コロナ禍の影響で不要不急の外出は控えているため、自由時間は自宅での授業の復習、読書、または筋トレやエアロバイクを漕いだりして、無駄のない時間を過ごしています。

ごせなくなり、実感することはありますか。友人や教員との付き合いはどのようにしていますか。

室：この状況になって改めて友達の大切さに気付きました。それまで当たり前のように授業を受けて、コミュニケーションをとっていましたが、オンライン授業では一人の退屈さとか、もどかしい気持ちを味わいました。こうした生活の中、電話やビデオ通話で、授業のわからないところを教え合ったり、たわいもない話をする事で友達が心のよりどころになりました。人は財産だと、コロナ禍を機に感じました。

林：僕は、グループワークがある授業以外は、必ず友達と電話しながらリアルタイムで受けるようにしていました。^{※2}それだと聞き逃すことも少なくなります。1年間で74単位履修しているので、レポートも大変ですが、友達と励まし合っていて乗り切っています。

オンラインならではの人のつながりもできました。Google クラウドの名前に学籍番号が書いてあるので、専修大学の学生だとわかるアカウントを見つけると、メールを飛ばして仲良くなったりもしました。

堀井：僕も SNS でのつながりは深くなったように感じます。同じ授業を受けてる友達と LINE でチャットしながら、授業を受けたり、わからない点を相談し合ったり、確認し合ったりしています。高校の友達とも連絡を取って他大学の状況も聞いたりしながら、オンライン授業に對

応しました。

阿藤：堀井さんは後期からゼミが始まりますね。ゼミでの合宿やコンパなどは、今はできませんが、いずれ集まれる時が来るまで頑張っていたと思います。吉武さんは、友人関係はいかがですか。

吉武：同じ学科の学生と一度も会ってないので、大学の友達が一人もいない状態なんです。SNS でつながっている人もいるみたいですが、私はそういうのに疎いので、中学や高校の友達に支えられました。

阿藤：国際コミュニケーション学部は今年スタートした学部ですね。

吉武：はい。一期生の仲間と一緒に作り上げていこうという思いで入学したので、それが今はかなわなくて悲しいなと思っています。

阿藤：国際コミュニケーション学部では語学の授業が大切だと思いますが、授業はどうですか。

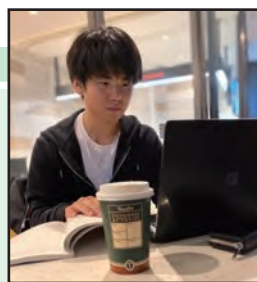
吉武：語学の授業は、前期は専攻するコリア語が3コマありました。そのうち一つは教科書を音読して、先生が確認してくれていましたが、先生の説明を聞くだけの授業もあったので、それだと YouTube を見るのと変わらないかなとも感じました。後期からは語学が5コマに増えるので、そこでしっかりと指導してもらえたらいいなと思います。

阿藤：双方向対話型のオンライン授業だと通信データ量を多く消費し、通信料もかかるので、

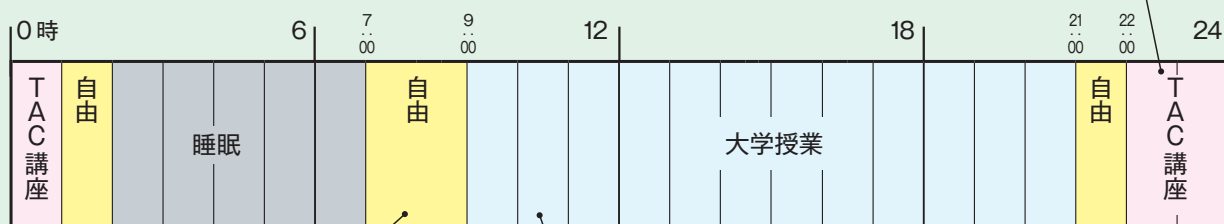
※2 動画再生型のオンライン授業は、通常の授業時間ぴったりには開始しなくても、ある程度時間の幅を持たせてあるので、時間をずらして授業を受けることも可能。



商学部3年
林 正揮さんの一日



TAC 教員採用試験講座は土曜日の講座を受講。しかし、それだけでは足りないと感じ、自主的にオンラインで先取り視聴しています。



自由時間は Amazon Prime Video を見たり、昼寝をしたり。

授業は多い日で1限から7限まで取っている日もあります。

なるべく通信データ量を抑えるようにという大学から教員への指示もありました。後期はこの制限が緩和されるので、オンラインの特長を生かした授業が行われるでしょう。

課外活動の実際

阿藤：サークル活動や資格試験講座などへの影響はありましたか。

室：柔道部では、昨年、全国大会の個人戦に出場したものの1回戦で負けて、とても悔しい思いをしたので、最後の一年はその借りを返そうと、毎日欠かさずトレーニングして、力を注いだのですが、このような終わり方になってしまい本当に残念でなりません。結果を出して監督やコーチに恩返ししたかったんですが、それができなかったのが本当に悔しいです。

林：僕は大学の授業以外に、TACの教員採用試験講座を受講していますが、オンデマンドのオンライン授業なので、自分でしっかりスケジュール管理して取り組まないと置いていかれてしまいます。毎回150分の授業ですが、時間をみつけて、こまめに取り組んでいます。それと、教員免許を取るために介護等の体験^{※3}に行く予定でしたが、今年は中止となったので、介護を体験しないまま教科書を読んでレポートを書くということになり、これはこれで結構大変な課題です。

阿藤：4年次には教育実習がありますが、受け入れ先の学校は決まっていますか。

林：はい。4月の時点で決めておいた方がいいという話だったので、母校の中学で受け入れてもらいました。

阿藤：堀井さんは専修リーダーシップ開発プログラムに参加されていましたが、この活動はいかがでしたか。

堀井：僕のチームはグリーンバード川崎駅チームという地域のごみ拾いをしているNPO団体に受け入れてもらって活動しています。街のごみ拾いはオンラインではできないので、三密を回避しながらという条件付きで活動に参加しています。コロナとの付き合い方として、会議などはオンラインを活用しつつ活動を進めていくというのが現状です。

阿藤：吉武さんは入りたいと思っていたサークルはあるのですか。

吉武：私は本が好きなので大学では文芸サークルが面白そうかなと思っていました。普通の大学生活になったらサークルにも入ろうかなとも思います。入学式もオリエンテーションもなくなってしまったので、「友達ゼロ」というのはたまに考えると心にずしっときます。夏休みには友達と遊びに行けたらなと思っていたところもありましたが、友達もいないし、自粛だし、ずっと一人でいました。

阿藤：9月中旬には遅ればせながら1年生のた

※3 介護等の体験 小学校及び中学校の教諭の普通免許状の取得に当たって、特別支援学校や社会福祉施設等で7日間の介護等の体験の履修が義務付けられている。

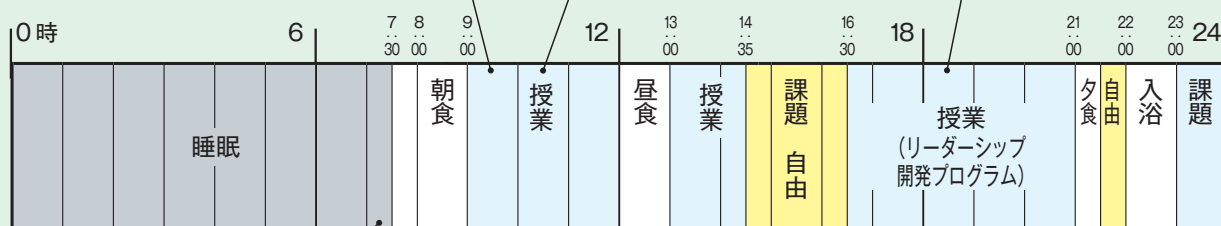


商学部2年 堀井洸希さんの一日

商学部は2年の後期からゼミがスタートします。

2年生まで多く単位を取得したいと考え、授業は週16コマ(前期)履修していました。そのため課題もたくさんです。

専修リーダーシップ開発プログラムを受講。理論・実践・内省のサイクルでリーダーシップについて学んでいます。講座実施日以外にもチームメンバーとのオンライン会議で作業を進めています。



アラームを2つセットして起きます。

めのオリエンテーション・ガイダンスを実施することになり、そこで担任の先生やクラスの仲間と顔を合わせることが出来ます。密を避けるため限られた時間になりますが、楽しみにしていただければと思います。

どうする？ 就職活動

阿藤：4年生においては、どのように就職活動を進めましたか。また3年生においては、これからの就職活動に対しどのような準備をしていますか。

室：私の実家は廃棄物や土木工事等の公共事業をしていますので、そこで働いて、さらに発展させたいと思っています。柔道の師範から、埼玉県警の特練員という形での就職もお声掛けいただいたのですが、コロナのため経済の先行きも見えないので、将来に向けて、自分の足元を固める意味でも実家の会社への入社を決めました。

阿藤：こういう状況で苦勞もあると思いますが、頑張っていたと思います。3年生の林さんは就職活動はいかがですか。

林：マイナビとかで企業を調べたりしてインターンシップに応募しているのですが、落とされてまだ行けてないです。あと、資格も取ろうかと考えましたが、思いのほか自分の取った授業が多くて大変で、資格の勉強までは手が回りま

せん。まずは教員採用試験に向けて勉強したいです。あとは、教職の先生から大学院に行ってみたら、という話もいただいて、教職大学院とかも視野に入れて将来を考えています。

バイトは収入ダウン？

阿藤：アルバイトをされている方は生活費に変化はありましたか。

林：中高一貫校で卓球のコーチのアルバイトをしているので、コロナで部活動中止の間は収入がゼロになりました。でもその期間は、ずっと家にいたのでほとんどお金を使うこともなかったです。それと、国による学びの継続のための学生支援緊急給付金も受けることができました。どちらかという収入面よりも、卓球部の生徒たちと話すことができなくて、精神的にしんどかったです。

堀井：私は塾講師をしています。一時は対面授業が中止になり、収入も落ちました。塾もZoomでの授業が始まり、収入も元に戻りました。

吉武：私は本屋さんでアルバイトをしています。飲食店と違って、大きな影響はなかったです。大学の授業が延期された期間は、ずっとアルバイトをしていました。

阿藤：コロナの影響で、アルバイト先で嫌な思いをした人はいますか。

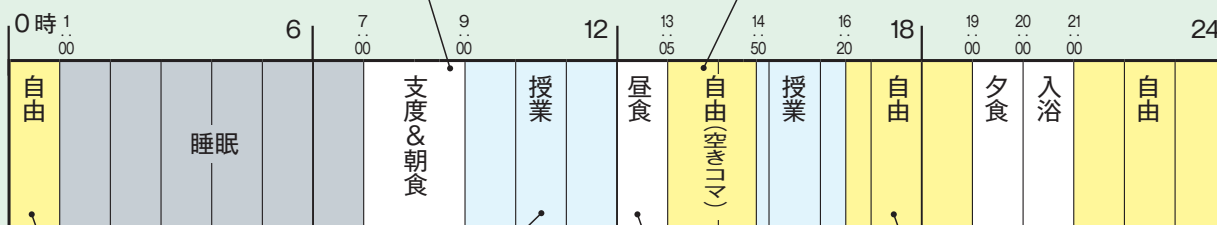


国際コミュニケーション学部1年 吉武千佳さんの一日

寝坊して8時50分に起きたことがあったのですが、通学がないので遅刻せずにすみしました。オンラインのいいところですね。

休日に書店でアルバイトをしています。平日は授業の課題や予習復習に時間を十分に使いたかったのでアルバイトはしていません。それと、通学途中に立ち寄ることを考えて都心のアルバイト先を選んだのですが、オンライン授業となったので、アルバイトのために都心に出るのは平日は控えました。

コリア語の勉強をしたり他の授業の予習復習をしたり、読書したり。



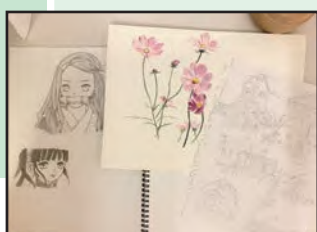
本を読んだり、絵を描いたりしていると、気づくとだいたいこの時間になっています。

前期は平均で1日3コマ授業を履修していました。空きコマも自宅で過ごすので、時間を無駄にしないよう、意識して過ごしました。特に火曜日は1限の後には5限まで授業がなかったので、時間の使い方が難しかったです。

母が用意してくれたものを食べたり、自分で作ったり、父が在宅勤務の時は父が用意してくれたりします。

犬の散歩に出かけたり、母と一緒に買い物に行ったりします。

父が在宅勤務の時は犬の散歩をしてくれるので、私は5日間家から出ない週もありました。完全に引きこもり生活です。大学へ通えるようになったとき、満員電車に乗れるか不安ですね(笑)。



林：飲食店で働いている友達は、経営困難のためクビになったりもしました。

これからの学生生活

阿藤：相変わらず先も見えない状況で、後期も基本的にはオンラインでの授業がほとんどになりますが、一部は対面の授業も復活し、学生食堂も一部営業する予定です。校舎で授業を受けていただける時間も少しは増えると思っています。後期授業に向けての抱負を語っていただければと思います。

室：私は今年で大学生活も最後なので、対面授業で友達と会いたいという思いもあるのですが、実際のところ厳しいと感じています。でも、大学時代に授業で学んだマーケティング論や経営学のノウハウや、柔道部で培った精神力と忍耐力は、社会に出て仕事に落とし込んでいけたらと思っています。こういった社会だからこそ、強靱な精神力をもって、自分がどういう人間になりたいかを自問自答しつつ、まっすぐ生きていきたいと思っています。

林：授業とTAC講座とを効率よく勉強して、まずは単位を取り切って、4年次を迎えたいと思います。そうすればある程度余裕を持って、教員採用試験と就職活動に取り組めるとしています。

堀井：これまでマーケティングの基礎的な知識を学んできましたが、後期から始まるゼミで仲間とともに、さらにマーケティングの専門的な知識を身に付け、マネジメントについて学びを深めていけたらと思います。専修リーダーシップ開発プログラムも後半に入りますので、12月の最終報告会に向けてチームのメンバーで協力

し合いながら、頑張っていけたらと思っています。

吉武：前期は大学の勉強の仕方とか初めてのことばかりで、手探りでやっている状態だったので、後期からは反省点を改善しながら勉強に取り組めたらと思っています。それと、国際コミュニケーション学部は留学が必修なので、語学の勉強により力を入れて取り組めたらと思っています。

阿藤：どちらに留学する予定ですか。

吉武：韓国語を専攻しているので韓国に行きます。2年生の前期に行く予定だったのが3年生の前期に延期になってしまったので、就活との兼ね合いも不安があるのですが、とりあえずは3年での留学を目指して、勉強していこうと思います。

阿藤：今は海外に行くことそのものが難しいですが、せっかく入った学部ですので、その頃にはコロナが収束して、海外に自由に行ける世の中になっているといいですね。

今日いろいろお話を聞かせていただき、オンライン授業を前向きにとらえて、頑張っている様子を聞いて、嬉しく思っています。僕ら教員としても、前期の体験を生かしていければと思っています。

大学ではオンライン授業について、6月末から7月上旬にかけて学生へのアンケートを実施しました（結果を18頁に掲載）。厳しい辛辣なご意見も寄せられていましたが、これらをもとに後期授業が少しでもいい方向にいけばと思います。皆さんも、今後、何かありましたら遠慮なく、ご意見をください。厳しい状況にありながらも皆さんの大学生活が少しでも充実したものになるよう、私たちも尽力していきたいと思っています。

プラスα ご父母からの質問

座談会開催にあたりご父母・保護者から寄せられた質問にご回答いただきました。

●専大生からもコロナ感染者が出ましたが、それについて思うことは？

林：いつか出るだろうと思っていたことです。専大生から感染者が出たからといって、緊張感が高まったとかはありません。これまで通り、手

洗い、うがい、マスク着用は徹底しました。卓球のコーチとして生徒と関わることが多いので、普段から感染予防にはかなり気を遣っています。

堀井：僕はミニ・オープンキャンパスの案内でほぼ毎週のように大学には通っていますので、その点今以上に気をつけて、手洗い、うがい等の感染予防をしっかりとやっていかなければな

らないと思っています。

●コロナ関係で大学への要望は？

林：大学には少し課題を減らしてほしいです。死ぬほど大変です（笑）。テストもやらないでほしい、全部レポートでいいので負担軽減をお願いしたいです。

阿藤：オンライン授業では課題が増える傾向にあるそうですね。1コマ90分の授業を半期15回やって単位を出すという仕組みになっているわけです。オンラインの授業では、4、50分の動画を見ていただいて、復習などをしていただ

くというタイムスケジュールになります。授業後に課題を出す教員も多いです。学生の立場から見ると、課題が成績評価に関わるとプレッシャーになっているかもしれません。教員は簡単なつもりで出した課題でも学生にとっては難しかったり、負担に感じる学生が多いというのもアンケートでも見えてきたので、後期は配慮していければと思います。

林：毎回、授業の感想を400字くらい書かせられます。これは、次の授業もあるのに負担が大きいです。

新型コロナ感染者への差別と偏見について



学生部長 商学部教授 阿藤正道

今年度の夏期休暇はコロナ禍のため、実家への帰省をためらった学生も多かったのではないのでしょうか。報道等によりますと、新型コロナウイルス感染者や医療従事者への差別や偏見が社会問題となっております。感染者の発生が報道されたことでその大学に通う学生がアルバイト先への出勤を断られたり、医療従事者の家族という理由で保育園への登園を断られたりする事例があるようです。このような差別や偏見は、未だに不明な点も多いこの感染症への不安からくるものなのかもしれません。しかし、感染者を差別する雰囲気広がれば、医療機関への受診が遅れたり感染を隠すことにつながり、逆に感染を広げることになりかねません。

専修大学では「新型コロナウイルス感染症対策本部」を設置し、新型コロナウイルス感染症に関する最新情報や在学生の状況把握、感染予防のための注意喚起等、必要な措置を講じております。本学においても新型コロナウイルス感染者が確認され、新型コロナウイルス感染症対策本部が保健所や医療機関等と連携して対応しています。感染確認を大学のホームページで公表する際には、感染者と関係者等の人権への配慮と個人情報保護に理解をさせていただくようお願いしております。感染確認者や快復者とその関係者が不当な扱いを受けることがないように努めて参りますので、皆様のご理解とご協力をお願いします。